

山口市芸術家育成支援事業

第11回やまぐち新進アーティスト大賞

第11回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

さ さ き のりこ
佐々木 範子

応募アーティスト数：10名

最終選考ノミネート者：7名

うえだ こうさち 上田 幸吉	(58)	かたやま りょうこ 片山 涼子	(36)
さ さ き のりこ 佐々木 範子	(48)	たに やすひろ 谷 康弘	(37)
つちや ひろこ 土谷 寛子	(37)	はらだ かずあき 原田 和明	(46)
よしだ あかり 吉田 朱里	(30)		

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総評)

新進アーティスト大賞10年の記念展を行って一区切りついた後の第11回は、絵画、工芸、写真、その他の分野から10名の応募があった。審査会場での投票の結果、7名が最終選考にノミネートされ、二回目の投票で3名が大賞候補者となった。ここで審査員がそれぞれ意見や感想を述べ、協議し、最終的に挙手によって大賞受賞者を佐々木範子氏と決定した。

佐々木氏の表現力の高さは審査員全員が認めるものであった。今後も地元根差した活動と、さらなる活躍を大いに期待したい。

(第11回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 斎藤郁夫)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

3作品「果ての実」「陽光」「一粒」は地域の自然をモチーフにブルー系統の単色で描かれた水彩画である。それぞれの作品で白(余白)を効果的に取り入れているところが印象的で、巧みな構成力と高い描写力を感じる。また単色にも関わらず、色の濃淡を使い分け、それぞれ異なる印象を与える3作品に仕上げた表現力にも感心する。作者の作品集から近年の精力的な創作活動がうかがえ、今後のより一層の飛躍に期待したい。

(第11回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 平川和明)

・・・第11回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

会田 大也 (山口情報芸術センター学芸普及課長)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館副館長)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館学芸参与)

平川 和明 (山口大学教育学部講師)

水谷由美子 (山口県立大学国際文化学部長)

大和 保男 (陶芸家)

(50音順・敬称略)

「第11回やまぐち新進アーティスト大賞」

さ さ き のりこ
受賞者：佐々木 範子
肩書き：画家



PROFILE

1972年 山口県周南市生まれ
1995年 金沢美術工芸大学美術工芸学部
美術学科絵画（油絵）専攻 卒業

大学卒業後、2010年より本格的に創作活動を再開しました。日々の普通の生活の中で出会った物や人を描いています。それらは、すべて、私にとって大切でありがたいものです。小さな幸せを感じられる風景を描きたいと思っています。絵画教室、美術講師や美術部の活動など、地域の皆様と一緒に「美術」を楽しんでいます。『美術っていいね』と思ってもらえる人が増えることを願い、今後も続けていきたいと思っています。

受賞コメント

この度は、やまぐち新進アーティスト大賞という栄えある賞をいただきありがとうございました。励まし、支えてくださった皆様方に心より感謝申し上げます。

この受賞は、今後の創作活動への大きな自信へとつながりました。とても心強く、本当に嬉しいです。

今後も精一杯頑張ってまいりますので、ご支援ご協力のほど、よろしく願いいたします。

(やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品)




「果ての実」



「陽光」



「一粒」

	心りがな アーティスト名	うえだ こうきち 上田 幸吉		
	年齢	58	創作活動の拠点	小郡
	芸術家として 目指す方向性	ジャンルにとらわれずオブジェ 彫刻 絵画等広く制作し、チャンスがあれば発表活動を行いたい。		

風神雷神

今までたくさんの人々が【風神雷神】のモチーフを制作してきました。切り絵作家としてその難しい画題をどのように伝えられるかを考え古典を現代版にアレンジしました。




モンタージュ(組み立て)

この作品は3つに分解された女性。
 頭部＝知性
 上半身＝無垢
 下半身＝美貌 を表現。

骸咲華

死に対しての‘恐れ’、‘儚さ’、‘淋しさ’、‘静寂’、‘光’、‘無’。死とは何かを骸に咲く花で表現。



	心りがな アーティスト名	かたやま りょうこ 片山 涼子		
	年齢	36	創作活動の拠点	大殿
	芸術家として 目指す方向性	山口市大殿地域での創作活動を続け、市内、県内を中心とした様々な場所で発表活動を行いたい。「買ってもらえるデザイン」のものと「感動してもらえるアート」なもの、両方の創作を行いながら、着る人も見る人もときめく服づくりを続け、より多くの人々にこの地域に足を運んでもらいたい。		

闇

コロナ禍で感じた恐怖、苛立ち、立ち向かいたい強い意志、追悼の想いを表現。

暗闇に迷い込んだような、未来が見えずに不安ばかりを感じていた春から夏にかけての自身の心境を描いた。

恐怖の波に呑まれそうになりながらも、積雪に耐え育つ橋のように立ち向かって行きたいという強い意思を表現した。

喪服の帯を使用したジャケットには追悼の想いも込めた。

新聞や黒い紙で出来た春の花々のヘッドピースは、悲しいニュースや情報に錯綜されていた脳内を表現している。



輝


コロナ禍を受けての変化、喜び、内側から湧き上がるような情熱、決意を表現。

柔軟に変化して行くことで、輝きに満ちたような日々へと繋がって来た夏から秋にかけての自信の心境を描いた。

波に呑まれぬよう流れに乗ることで、万華鏡のようにくるくると様々なことが舞い込んで来た。そしてその都度、宝を得るかのよう日々が変化して来たことを表現した。

スカートの内側から透けるピンク色は、内側から湧き上がるような情熱、未来への創作意欲を込めた。

花束のようなヘッドピースは、過去の出逢いへの「ありがとう」や未来の出逢いへの「よろしく」の想いを表現している。

	心りがな アーティスト名	さ さ き のりこ 佐々木 範子		
	年齢	48	創作活動の拠点	吉敷
	芸術家として 目指す方向性	市内で創作活動を続け、クオリティを高めたい。チャンスがあれば市外での発表も行いたい。		



果ての実

キャンバスに水彩。
 徳佐のりんごを描きました。
 休みなく、ていねいな手入れは
 行きとどいて、その末に実った
 果実は甘くて美しい。



陽光

キャンバスに水彩。
 徳佐のりんごを描きました。
 外出できなかった今年の前
 半を思い、殊更にまぶしく感じ
 ました。



一粒

キャンバスに水彩。
 稲穂を描きました。
 今年は害虫被害が大きく多く
 の田が枯れていました。多大
 な労力が必要な稲作も続けら
 れず作る人は減るばかり。お
 米の一粒一粒がかけがえがな
 いと感じています。



ふりがな アーティスト名	たに やすひろ 谷 康弘		
年齢	37	創作活動の拠点	小郡
芸術家として 目指す方向性	現在写真展を含めたパフォーマンスの依頼が東京、札幌、新潟とお話を頂いているのでこれまでと同様に山口を制作拠点に県内外での発表、また、以前ロンドンのアートギャラリーから展示の依頼が来たこともあり欧州欧米での発表活動、写真集、刊行物の制作を中心にアーティスト活動をおこなっていきます。		

SEASCAPE

この作品は2020年に制作を始めた作品となります。海の風景を様々な場所で、全て同じ構図で撮影しています。

現在世界中で猛威を振っている新型コロナウイルスの影響で、我々はこれまで経験したことが無い様々な影響を受けながら生活をしています。2020年という区切りに人類はターニングポイントを迎えたと言ってもいいでしょう。過去の記録をみたら100年に1度このような疫病の流行はおこり、その度に人類はそれを乗り越え生物的にも進化してきました。

僕は今、世界中で同時多発的に起きているこの出来事から影響を受け、地域、国籍、人種、性別間で普遍的なもの、海を対象にした作品の制作を始めました。別の場所で撮影した海の風景を、全て同じ様に水平線の高さを合わせ、空から雲を無くし白く飛ばしたこの作品は現実風景からのリアリティの喪失を意味し、現実から別のものに変換させたいと思っています。芸術世界ではメタフォリカルなモチーフになりやすい海、空というものをこの時代に生きる人がこの作品を見てどう感じれるかを僕はこの作品ではおこないたいと考えています。



monolith

この作品は自然崇拝[アニミズム]をテーマに山口県の瀬戸内海側、日本海側で撮影している作品です。その中でポイントとなるのが神事における磐座の存在です。僕は山口県内の沿岸部を中心にその風景を求め、これまでに防府市、宇部市、山陽小野田市、周南市、下松市、周防大島町、萩市、長門市、下関市とフィールドワークを通して現在撮影を進めている作品となります。

※全文は作品横の自己アピール資料をご覧ください。

空気の速度に歩幅を合わせる


2020年山口市菜香亭にて発表した同名写真展の作品。僕自身がライフワークとして撮影している作品であり、菜香亭の展覧会では美祢市で撮影した写真だけで構成し展示しました。今回応募する作品は同シリーズの未発表作品になります。

2014年9月27日に噴火した御嶽山を期に自然への関心が高まり、秋吉台を中心に撮影を開始。その後現在まで撮影を続けており、普段生活している中では他愛も無い見過ごしている自然風景に僕は想像力を刺激されます、それは僕自身が視ているものが生物としての自然に、ある種の念を感じる事が撮影に強く関係し制作の中心となっています。

森の中に入り意識を自然の動きに傾ける、風が吹き木々の葉が重なる音。風の向き次第で変わる色、揺れる木々から差し込む光の変化。霧が立ち込める中、その動きを視ている。光の描写で形を変える空気。生きている風景。

その些細で形容し難い感覚的な時間を、この作品では表現しています。展覧会場ではサウンドパフォーマンスの開催を考えており、環境音が流れる空間の中で写真作品を観る、視覚と聴覚で体感する展覧会イベントをおこないたいです。



	心りがな アーティスト名	つちや ひろこ 土谷 寛子		
	年齢	37	創作活動の拠点	平川
	芸術家として 目指す方向性	会社員のかたわら創作活動を続けて参りました。継続的に自分の作品を見てもらう機会を増やすため、ギャラリー等への展示。ウェブサイトの制作。約10年以上続けてきた刺しゅう、イラストレーションの作品のクオリティとオリジナル性を追求し、ワークショップなども取り入れ自分の世界感を広げていきたいです。		

花のある暮らし

オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。
糸の立体感・光沢感で服を表現しています。




浮遊

オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。
人がゆらゆら浮いているイラストを描いています。
見方によっては違う絵にも見えます。

くま

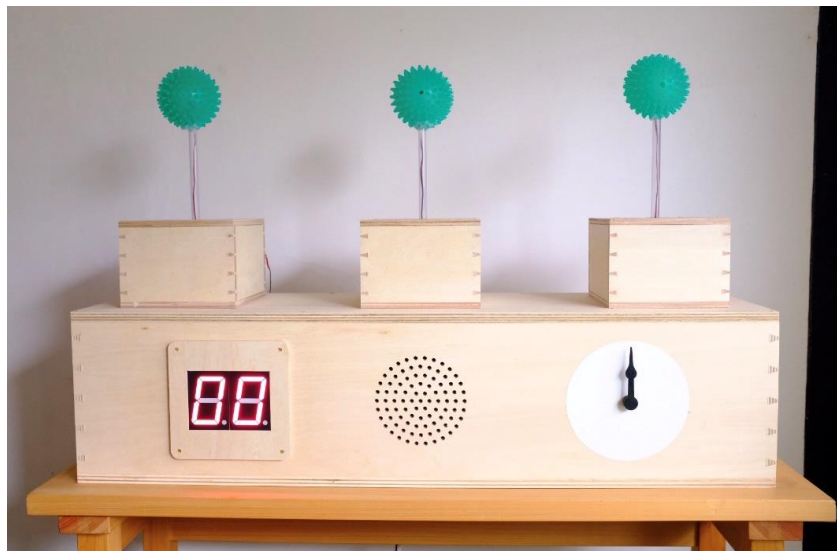
オリジナルのイラストをシルクスクリーン印刷で転写した布に、鮮やかな刺しゅう糸で色付けた作品を展示。
動物の毛並みを刺しゅう糸で表現しています。



	心りがな アーティスト名	はらだ かずあき 原田 和明		
	年齢	46	創作活動の拠点	秋穂
	芸術家として 目指す方向性	昨年、原田和明作品集『話せば短くなる』が出版されたのでその本の紹介も兼ねて、本を取り扱ってくださっている全国のお店で個展をしていきたいと考えています。コロナ禍が終息したら、海外での展示も再開したいです。2021年の夏には、山口市をテーマにした作品を山口市内で発表したいと考えています。		

ウイルススナイパー

注射器型の光線銃でコロナウイルスを撃ちたおすインタラクティブな作品です。
 黒いボタンを押すとゲーム開始のベルが鳴り、タイマーが動き始めます。
 タイマーが一周するまでの間、光線が的に命中した回数を競います。
 命中回数はデジタル得点板に表示されます。
 機械、木工、プログラミング、電子工作等の要素を組み合わせて制作しました。




思う壺

静かに物思いにふけりながら散策をする壺。
 スイッチを入れると、壺が左右に振れながら台の上をゆっくりと回ります。壺の中には3Dプリンタで制作した防水の一輪挿しが入っているので、花を生けることが出来、生花やドライフラワーなど生ける花によって、作品の表情や空間の色が変わります。
 壺の色は柿渋と鉄媒染で染め、台と仕組みには桜の木を使用しました。

月下独酌

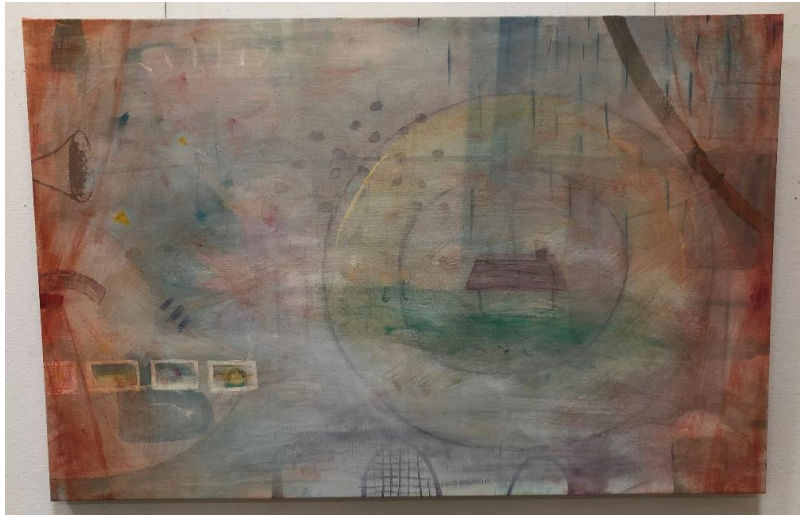
李白の有名な作品『月下独酌』をモチーフにして作りました。李白が自分の影と月を相手にお酒を楽しんでいる様子を表現しています。
 これまで素材としては主に木を使ってきましたが、この作品では、人形の着物には布を使ったり、月の部分を和紙と糊を使って張り子で作ったり、それぞれの素材の良さを一つの作品に融合させています。



	心りがな アーティスト名	よしだ あかり 吉田 朱里		
	年齢	30	創作活動の拠点	小郡
	芸術家として 目指す方向性	今後も東京等も視野に入れつつ、市内を中心に作品を発表し続けたい。 より理想とする表現を求め、これからも精進したい。		

a stage actor

父をテーマに制作した作品。多くの趣味を持つ彼。その趣味は、スポーツから音楽まで幅広く、まるでどんな役でもこなす俳優のようだ。一見あれもこれもと定まらない様だが、全ては彼の舞台上での‘事’なのだろう。また今日、自分の時間を楽しむまでには雨の降る日もあったはず。本作品の画面上に、薄っすら見え隠れするモノや風景がいくつもあるが、これは、人間の記憶が時間の経過によって薄れていく様子で、彼が今までやってきた事を描いては薄く白色を乗せ、それを何度も繰り返し表現した。記憶は薄れていくものの、確かに個人の中に存在し、その積み重ねが「今」となるのだと強く思う。そして、「今」が「過去」へと変わる瞬間は直ぐそこまできている。



inherit

母をテーマに制作した作品。最近、祖母から受け継いだ畑で野菜や花を育てる彼女。自然を相手にするのは想像以上に大変な様だが、立派な野菜や花が食卓に並ぶ機会が多くなってきた。また、洋裁師としての彼女も魅力的で、本作品の画面全体を覆うストライプは布を表しており、それを断つハサミや針、糸、壁紙などを背景に忍ばせ、洋服が出来るまでの工程を表現した。彼女のように、いろいろな場所でたくさんの人から様々な「モノ」や「思い」を受け継ぎ、その中で身に着けた技術や知恵で‘自分らしさ’をプラスすることで、人は生きる喜びや楽しさを感じるのではないか、と、収穫した野菜や花、そして、完成させた洋服を見つめる彼女の眼を見て、そう強く思うのだ。



moving islands

海を颯爽と進む船。
 船が進んでいるように見えているだけで、実は島の方が動いていて、それに引っ張られ船が進んでいるのではないかと想像した事から生まれた作品。
 自らの力で進むのではなく、他の力に助けられている。
 そこに気づくことができれば、さらに世界は広がるし、もっと言えば「感謝」や「協力」という言葉が出てくるはず。そんな世の中であってほしい、という思いも込めた。

